

1 単元名 Do you have an emergency bag? (Let's Try!2 Unit5 Do you have a pen? 文部科学省)

2 単元の目標

ALTに防災バッグの必要性について知ってもらうために、自分が必要だと思う防災バッグの中身について、相手に伝わるように配慮しながら、工夫して伝え合うことができる。

(話すこと【やり取り】(イ))

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 「やり取り」	<知識> 文房具などの学校で使う物や防災バッグの中身の言い方や、Do you have～? I have～. の表現について理解している。 <技能> 文房具などの学校で使う物や、防災バッグの中身を Do you have～? I have～. 等の表現を用いて、話す技能を身につけている。	ALTに防災バッグの必要性を知ってもらうために、その中身について、伝わるように自分の考えや気持ちなどを加えて伝え合っている。	ALTに防災バッグの必要性を知ってもらうために、その中身について、伝わるように自分の考えや気持ちなどを加えて伝え合おうとしている。

4 単元設定の趣旨

本単元は、児童の身近なものである文房具などを題材にし、友達同士で持ち物を尋ねたり、答えたりする単元である。今年度の第4学年の総合的な学習の時間では、地震や津波から命を守ろうという活動を進めてきた。年明けに起こった能登半島沖地震や、今後必ず起こるであろう南海トラフ大地震など、生活の中で児童が地震や津波について知ったり、身近に感じたりすることが多くある。本単元の学習を通じて、児童が地震や津波を自分事としてとらえ、実生活につなげることができると期待している。カリキュラム・マネジメントの視点で総合的な学習の時間と英語学習をつなげ、ALTに地震が起きた時のために、必要なものに気づいて知ってもらいたいという思いから、単元ゴールを「ALTに防災バッグの必要性を知ってもらうために、その中身について、伝わるように自分の考えや気持ちなどを加えて伝え合うことができる。」と設定した。その際、地震についてあまり知識のないイギリス出身のALTに向けて、防災バッグの中身を紹介するという場面を設定し、児童が紹介するだけではなく、なぜ必要なのか理由や気持ちを伝えることで、ALT自身に防災バッグの必要性を実感してもらいたいと考えている。

本学級の児童は、第4学年“Hello, world!”において、実際に世界のあいさつを使って、自分の好みや嫌いなものを伝えるために、I like～. や I don't like～. などの表現を学習してきたが、既習表現を使って自分の考えや気持ちを言い換えたり、会話を広げたりすることに課題が見られる。本単元では、筆箱の中身を尋ねたり、答えたりする Do you have～?/ I have～. 等の英語表現を、総合的な学習の時間と関連させた「防災バッグの中身を伝える」という言語活動を行うなかで、既習表現や気持ちを伝える表現とともに使うことで、会話を広げたりする力を育成したい。

単元の学習で中心となる言語材料は、Do you have～?と I have～. である。このような言語材料を児童の身近な文房具を使って、I have～. 等の言い方に慣れ親しんだ後に、防災バッグの中身についてそれらの表現を用いて伝え合う活動を行う。学習を通して、I have～. を日常でも使える表現の一つとして身につけられるようにしていきたい。単元の前半では、文房具などの学校で使う物について、I have～. を使って言い表し、その中から自分が持っている、筆箱の中身を伝え合う活動を行う。その際、Chromebookのロイロノートを使い、文房具

のイラストのカードを wordlist にしてまとめ、いつでも児童が自分で確認ができるようにしておく。また、その wordlist の各単語には、ALT の発音動画を付け、発音も自由に再生できるようなデータをクラウドに保存しておくことで、児童が自身の必要なタイミングで視聴することが可能となるようにしたい。単元の後半では、防災バッグの中身を Do you have~/ I have～. を使って伝え合う。単元の後半でも、総合的な学習の時間で子どもたちから出た防災グッズを wordlist にまとめ、自由に活用することで、児童の表現が広がることを目指していく。質問リストや、様子リスト、気持ちリストなど、会話を広げられるような表現がクラウド上で共有されることにより、児童の会話も深まるであろう。また、自分では思いつかないような表現や、言い換えることができないような表現も出てくると思われる。そういった場面では、授業内で記録として撮影している動画を児童間で共有することにより、友達の言い方をまねしたり、アレンジしたりするなど、自分で多様な表現を獲得できるよう ICT を活用していく。防災バッグの中身に関する単語は 4 年生にとって聞きなれない語句であるため、英語の時間だけではなく、総合的な学習の時間でも紹介し、日々触れていくようにする。繰り返し I have～. を用いて表現するなかで、どうしてその物が必要なのか、自分の考えや思いを持った英語になるように仕組んでいきたい。児童はやり取りを行う中で、同じものを選んでいても理由が違うことに気付いたり、理由を聞いて納得したりして、理由を伝えたり聞いたりすることの大切さを感じるだろう。様々な思いを共有していくことで、児童は新たに防災グッズとして必須ではないが、自分にとってあれば嬉しいものを伝えたいという気持ちが高まると予想される。そこで本時では、心を癒すものや自分の趣味に関するものなどを含めた防災グッズに必要なものベスト 3 を決め、理由や気持ちを伝え合う時間にしていきたい。また、本時では、伝えたい内容が英語で表現できなくても、単語を使って伝えようとする姿を評価したり、ジェスチャーなどを使うと、より相手に伝わるという事に気付かせたりして、意欲的なコミュニケーションを目指していきたい。

5 小学校における学びのつながり

学年	領域	単元 (題材とのつながり)	Can-Do のつながり
4 年生	【話すこと】 (やり取り)	Unit5 ; “Do you have a pen?”	イ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。
	【話すこと】 (やり取り)	Unit8 ; “This is my favorite place.”	イ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。
5 年生	【話すこと】 (やり取り)	Lesson5 ; “When is your birthday?”	ウ) 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。
6 年生	【話すこと】 (やり取り)	Lesson 3 ; “What time do you get up?”	ウ) 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。

6 単元の指導計画と評価計画（7時間）

時	目標	主となる学習活動 【クラウドを活用する場面】	評価規準		
			知技	思判表	態度
1	文房具の言い方を知り、自分の筆箱の中身について伝え合うことができる。	○単元の見通しをもたせる。 ○ALT' s Talk 「防災バッグの中身」 ○児童自身にとって必要なものである文房具などの学校で使う物の言い方や、I have～. の言い方を知る。【文房具の提示（児童用 Chromebook）】 ○文房具の中身を伝え合う。【Let' s Try p20】 【児童のゴールの姿】 A: This is my pencil case. I have ～. Do you have ～? B: Yes, I do. And I have ～. Do you have ～? A: No, I don' t. B: (あいづち). Thank you. <引き出したい振り返り> C:I have を使うと、自分の持ち物が伝えられました。次は文房具以外も伝えてみたいです。			
2	自分の筆箱の中にあるお気に入りの物について、その理由とその気持ち・様子を伝え合うことができる。	○Teacher' s Talk 「筆箱の中身」 ○Small Talk 自分の筆箱の中身を、その個数とともに紹介する。 ○自分の筆箱の中にあるお気に入りの物と、その理由を伝え合う。【筆箱の中身の掲示（児童用 Chromebook）】 ○やりとりの様子を友達と撮影し合う。【動画撮影（児童用 Chromebook）】 【児童のゴールの姿】 A: This is my pencil case. I have a blue pen. B: Why? A: I like blue. Do you have a blue pen? B: Yes, I do. Me, too. It' s cute. A: (あいづち). Thank you. <引き出したい振り返り> C: 自分のお気に入りの文房具の理由が伝えられました。It is～や I like～を使って、伝えることができました。			
3	自分の筆箱の中にあるお気に入りの物について、より相手に伝わるように工夫しながら、理由や気持ちを伝え合うことができる。	○自分の筆箱の中にあるお気に入りの物について、どのような表現を使えば、相手により伝わるのか思考する。【ペアで話し合い、wordlist の活用（児童用 Chromebook）】 ○やり取りの様子を友達と撮影し合う。【動画撮影（児童用 Chromebook）】 【児童のゴールの姿】 A: This is my pencil case. I have a blue pen. B: Oh, nice! Oh, blue pen! Why? A: I like blue. Do you have a pen? B: Yes, I do. A: Oh, good! Why? B: It' s cute! (ジェスチャー) My mother present it(ジェスチャー). A: (あいづち). Thank you. <引き出したい振り返り> C: 今日は、自分のお気に入りの文房具と好きな理由について伝えました。ジェスチャーをすると相手により伝わると思いました。○○さんがなんで、あの鉛筆を入れているのかが分かりました。			

4	防災バッグの中身の言い方を知り、友達と伝え合うことができる。	○Small Talk 自分の筆箱の中身、お気に入りのものとその理由を紹介する。 ○防災バッグ（総合的な学習の時間で作成したカードを使用。）に必要な物の言い方を知り、I have～を使って、お互いの選んだ物を伝え合う。【カード操作・wordlist活用（児童用 Chromebook の活用）】 ○やり取りの様子を友達と撮影し合う。【動画撮影（児童用 Chromebook）】 【児童のゴールの姿】 A: This is my emergency bag. I have a bottle of water. Do you have water? B: Yes, I do. I have a blanket. Do you have a blanket? A: No, I don't. B: (あいづち). Thank you. <引き出したい振り返り> C: ALT の先生が防災バッグについてもあまりくわしくないうことが分かりました。I have を使って、ALT の先生に防災バッグに必要な物を伝えたいです。			
5	必要な防災バッグの中身を知ってもらうために、理由を加えて、友達と伝え合うことができる。	○Small Talk 自分の防災バッグの中身を紹介する。 ○必要な防災バッグの中身を伝える際に、理由や気持ちを加えて伝え合う。 ○やり取りの様子を友達と撮影し合う。【動画撮影（児童用 Chromebook）】 【児童のゴールの姿】 A: This is my emergency bag. I have water. B: Why? A: I drink water. Do you have water? B: Yes, I do. A: Why? B: I cook. It's important. I have a blanket. A: Why? B: It's warm. A: Oh, nice! Thank you. <引き出したい振り返り> C: It is や、I drink を使うと、必要だと思う理由や気持ちを伝えることができました。ALT の先生にもっと伝えてみたいです。			

6 (本時)	ALTに必要な防災バッグの中身を知ってもらうために、相手に配慮しながら、工夫して、友達と伝え合うことができる。	○自分の必要な防災バッグの中身について、どのような表現を使えば、相手により伝わるのか思考する。【ペアで話し合い、wordlistの活用(児童用Chromebook)】 ○やり取りの様子を友達と撮影し合う。【動画撮影(児童用Chromebook)】 【児童のゴールの姿】 A: This is my emergency bag. I have water. B: Oh, water! Me, too! Why? A: I drink water. And I cook (ジェスチャー). Do you have water? B: Yes, I do. A: Oh, nice! Why? B: It's important. A: Oh, me too. B: Oh, nice! I have <i>Yadon</i>. A: Woo, <i>Yadon</i>! Why? B: I like <i>Yadon</i>. A: Oh, you like <i>Yadon</i>. It's cute! Big? (ジェスチャー) B: No, it's small. (ジェスチャー) A: OK! Thank you. <引き出したい振り返り> C: 自分のおすすめの防災バッグの中身を伝えるためには、理由や自分の気持ちを伝えると相手に伝わると分かりました。 C: 理由や自分の気持ちを伝えるときには、It'sやI like～を使うと相手に伝わりました。 C: うまく伝えられないときは、ジェスチャーを使ったら上手に伝えることができました。			
7	必要な防災バッグの中身について、理由や気持ちを加えて、工夫しながらALTや友達と、伝え合うことができる。	○Small Talk 防災バッグの中身を理由も交えて紹介する。 ○ALTに防災バッグの中身について工夫して伝えあう。 (5グループに分け実施。やり取りのないグループは、ペアで動画撮影を行ったり、他のグループのやり取りを聞き、表現を取り入れたりする。) ○単元全体の学習を振り返る。 【児童のゴールの姿】 A: This is my emergency bag. I have water. B: Oh, water! Me, too! Why? A: I drink water. And I cook (ジェスチャー). Do you have water? B: Yes, I do. A: Oh, nice! Why? B: It's important. A: Oh, me too. B: Oh, nice! I have <i>Yadon</i>. A: Woo, <i>Yadon</i>! Why? B: I like <i>Yadon</i>. A: Oh, you like <i>Yadon</i>. It's cute! Big? (ジェスチャー) B: No, it's small. (ジェスチャー) A: OK! Thank you. <引き出したい振り返り> C: 今日は、ALTの先生に自分の必要な防災バッグの中身について伝えました。分からない所はジェスチャーで伝えると、うなずいてくれてうれしかったです。先生もNiceと言ってくれたので、ぜひ、自分が紹介した防災バッグの中身を準備してほしいです。	☒	☒	☒

7 本時の指導（6/7時間目）

(1) 本時の目標

ALTに必要な防災バッグの中身を知ってもらうために、相手に配慮しながら、工夫して、友達と伝え合うことができる。

(2) 本時の評価規準

ALTに必要な防災バッグの中身を知ってもらうために、相手に配慮しながら、工夫して、友達と伝え合っている／伝え合おうとしている。

※本時では記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。

(3) 展開

時間	学習活動	○指導上の留意点 ■本時の評価規準 [自己選択・自己決定…太字]	生徒指導の3機能
1分	1 挨拶をする。	○明るい雰囲気が始まるように声をかける。	
38分	2 課題をつかむ。 ○前時の動画で良い所を見つける。	○前時に提出した動画で、伝え合う際に、ジェスチャーやリピートなどを取り入れている動画を見せ、コミュニケーションをよりよくするための工夫に気づかせる。	自己存在感を与える
	3 本日のめあてを知る。		
	必要な防災バッグの中身について工夫して伝え合おう。		
	4 課題に向かって、付け加えたい表現を考える。 ①横ペアで伝え合う。 ②ICTを活用したり、横ペアで相談したりしながら必要な表現を増やす。	○引き出したい工夫について児童と確認する。 <引き出したい工夫> ・コミュニケーションポイントを意識して伝える。 ・その必要な物に対する理由が分かる。 ・その必要な物に対する自分の気持ちや様子が分かる。 ○総合的な学習の時間で決めた必要な防災グッズベスト3に加え、自分にとって大切なものを伝え合うことを確認する。	自己決定の場を与える
	5 防災バッグの中身を伝え合う。 ①縦ペアで防災バッグの中身を伝え合う。 ②中間指導	○必要な防災バッグの中身を伝えるために、理由や気持ちをどの表現を使うのか、これまでの単元を自分で振り返ったり、ペアで相談したり、Chromebookにあるword listを活用したりするなど自分自身で選択し、表現を付け加えさせるようにする。 ○<word list> <u>It's</u> important, warm, cold, delicious, dark, useful, helpful, big, hard, soft, light, long, short, small, dry, high, low <u>I have/ Do you have</u> band-aid, batteries, blanket, water, clothes, food, emergency toilet, glasses, mask, money, radio, towel, <u>I</u> have, drink, sleep, eat, walk, go to <u>中間指導</u> ○モデルとなる児童を撮影しておき、良い点を共有する。 ○どのように伝えると、伝わりやすかったかを共有する。 ○単語やジェスチャーなどでも自分の思いを伝えようとしている態度を評価する。	共感的人間関係を育てる

	教材研究会を受けて、加えます。 ③横ペアで付け加えたい表現を考える。 ④再度縦ペアで防災バッグの中身を伝え合う。 ⑤中間指導 【児童のゴールの姿】 A: This is my emergency bag. I have water. B: Oh, water! Me, too! Why? A: I drink water. And I cook (ジェスチャー) . Do you have water? B: Yes, I do. A: Oh, nice! Why? B: It' s important. A: Oh, me too. B: Oh, nice! I have <i>Yadon</i>. A: Woo, <i>Yadon</i> ! Why? B: I like <i>Yadon</i>. A: Oh, you like <i>Yadon</i>. It' s cute! Big (ジェスチャー)? B: No, it' s small (ジェスチャー) . A: OK! Thank you. ⑥縦ペアで動画の撮影を行う。	○友達の見解を聞いて、取り入れたい考えがなかったか共有する。考えを聞いて、自分の選んだものを変えてもよいことを伝える。 中間指導 ○2回目のやり取りでは、どんな伝え方ができたか共有する。 ○ペアの友達のどんなところが良かったのかを全体で確認する。 ○1回目と2回目で、伝えたいものや理由の変化があった児童がいれば全体で共有する。 ■ALTに必要な防災バッグの中身を知ってもらうために、相手に配慮しながら、工夫して、友達と伝え合っている／伝え合おうとしている。 【行動観察・動画・振り返りシート】	自己存在感を与える
6分	6 振り返りを行う。 7 挨拶を行う。	○防災バッグに必要な中身について、伝え合う際に、大切だと思ったポイントについて振り返らせる。 [児童から引き出したい振り返り] C: 自分のおすすめの防災バッグの中身を伝えるためには、理由や自分の気持ちを伝えると相手に伝わると分かりました。 C: 理由や自分の気持ちを伝えるときには、It' s やI like～を使うと相手に伝わりました。 C: うまく伝えられないときは、ジェスチャーを使ったら上手に伝えることができました。	

8 板書計画

⑧ 必要な防災バッグの中身について工夫して伝え合おう。

Monday,
October 7th

I have～.

Do you have～?

防災グッズのカード

・理由や気持ち
・コミュニケーションポイント

I

It's

動詞のカード

形容詞のカード